

## 玉川上水とは

江戸の六上水の一つ。羽村から四谷までを流れる。平成15(2003)年8月に竣工350年を迎え、江戸、東京の発展を支えた歴史的価値を有する土木施設・遺構として、文化財保護法に基づき、国の史跡に指定されました。

# 玉川上水

## 上水の成り立ち

江戸の都市拡大と人口増加に伴って増大した水需要に対して、水源が乏しかった江戸では幕府や町民は生活水の確保に苦勞していました。特に城下の東南側の低地(現在の台東区・中央区・江東区・江戸川区など)は湿地帯を埋立て、造られた土地であり、井戸を掘っても海水が混じってしまい、質の良い淡水を得ることは難しかったそうです。そこで、豊かな水資源を持つ多摩地域から江戸の人々の生活用水を得るために、玉川上水は作られました。江戸時代前期の1653年(承応2年)に、羽村の多摩川から四谷までの高低差92.3メートル、長さ42.74キロメートルまでが完成しました。一部区間は今日でも東京都水道局の現役の水道施設として活用され、都民の生活を支えています。また、水辺を好む生き物たちの貴重な棲み処にもなっています。